

研究実施のお知らせ

2025 年 7 月 16 日 ver.1.0

研究課題名

Sharon 手術に焦点を当てた S 状結腸軸捻転症に対する外科的治療の後方視的検討
Surgical Management of Sigmoid Volvulus:
A Retrospective Review of Six Cases with a Focus on the Sharon Operation

研究の対象となる方

2015 年 1 月から 2023 年 12 月までの間に島根大学医学部附属病院（消化器・総合外科）で S 状結腸捻転症に対する手術加療を受けた方が本研究の対象となります。

研究の目的・意義

S 状結腸捻転症は高齢者に多く、腸管壊死を伴う場合は緊急手術を要することが多いのですが、壊死所見が明らかでなければ一般的に内視鏡的整復が選択されます。しかしながら内視鏡的整復後も再燃することがあり、頻回な整復を要する場合は待機的手術が検討されます。S 状結腸捻転症に対する外科的手術については様々な報告がありますが、統一された見解はありません。Sharon 手術は 1985 年に報告された S 状結腸の外側授動を必要としない術式であり、短い手術時間や小開腹創などの利点を有しています。本邦においてはあまり一般的ではありませんが、当科ではその特長を活かして手術リスクが高い症例などに施行しています。当科における S 状結腸捻転症の手術症例を後方視的に検証し、Sharon 手術を中心に各術式の有効性や適応について検討することで、今後の診療に有用な知見を得ることが本研究の目的です。

研究の方法

本研究は単機関後方視的観察研究です。

当科の手術台帳からピックアップした該当症例に関して、島根大学医学部附属病院の電子カルテ内から年齢・性別・現病歴・既往歴・血液検査データ・麻酔記録・手術記録などの情報を抽出して整理・記述統計を行います。

データの管理や整理については、個人が特定されないように研究対象者の識別が不可能な状態で行います。

研究の期間

2025 年 8 月 25 日～2026 年 12 月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。
研究対象者の氏名など個人を識別できる情報を公開することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：井上 圭亮

島根大学医学部消化器・総合外科学講座

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ、いつでも利用を停止することができます。

ただし、結果の公表を既に行っている場合はご要望に沿えませんのでご了承ください。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：井上圭亮

島根大学医学部消化器・総合外科学講座／附属病院消化器外科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2232